第 114 回　防災カフェを開催しました。

びわ湖わんにゃんペット防災推進チーム SEIL の取り組み

～人もペットも安心して暮らせるまちづくり～

日 時：2026 年 9 月 28 日（月）18 時 30 分～20 時

ゲスト：びわ湖わんにゃんマルシェ実行委員会副会長　藤井 博次 さん

ゲスト：10 周年びわ湖わんにゃんマルシェ実行委員会

（ペット防災指導員）鷲田 七恵 さん

ファシリテーター：びわ湖わんにゃんマルシェ実行委員会会長

川口 ひとみ さん

災害時に「ペットがいるから避難できない」という状況をなくすため、人も動物も安心して避難できる地域づくりなどペット防災で大切なことについてわかりやすくお話いただきました。



災害時ペット同行避難ガイドラインについて

川口さん:ＳＥＩＬ（ザイル）は命綱という意味です。地域と人をつなげる、人とペットをつなげる、行政やボランティアの方などがみんな繋がって命を守っていこうという思いで立ち上げました。滋賀県災害時ペット同行避難ガイドラインについて説明します。

ゲスト：藤井 博次　さん

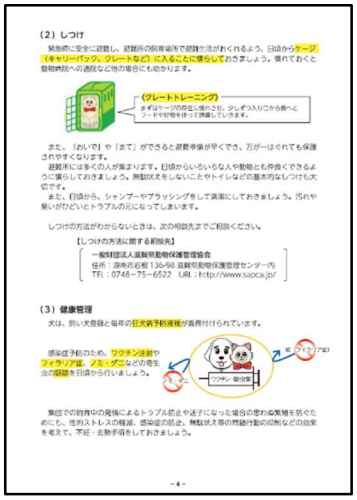
藤井さん:令和６年に滋賀県動物愛護管理推進計画（第３次）が作成されました。４つの重点項目があり、その中に災害時のペット対策の充実と書かれています。県は重点４「災害時のペット対策の充実」と施策８「災害時等の体制整備」をもとに、災害が発生したときには、獣医師会と連携してバックアップを行うこととなっています。私たちができること、そして市や町でできることを説明します。



滋賀県には災害時ペット同行避難ガイドラインがあります。滋賀県のホームページで検索していただくとご覧いただけます。ペットと暮らしておられる方、災害時に避難所を開設する任務にあたられる行政の方に持っていただくと良いと思います。滋賀県は災害が比較的少ないと言われていますが、明治 29 年（1896 年）には琵琶湖の水位が 4ｍ近く上がったという大きな水害がありました。平常時からペットを飼っておられる方は必要な対策をとっていただけると良いと思います。

このガイドラインは平成 28 年につくられ、アップデートもされています。飼育されている割合が高いので、犬と猫が主に扱われています。災害は急に起こりますから、ペットは音や揺れなどに驚いて、神経質、ナーバスになることもありますし、逃げ出してしまうことも起こります。自分の避難も大変なのに、逃げ出したペットを探すのは時間もかかり大変です。基本的には同行避難、同伴避難となります。同伴避難は避難所でともに暮らす、一緒に避難をするということです。使い分けていただけると良いと思います。

同行避難するにあたっては迷子札、鑑札を装着しましょう。鑑札は狂犬病予防法によって飼い犬には義務づけされています。マイクロチップは令和４年から装着が制度化されました。それ以前から飼っておられる方は努力義務になっています。ブリーダーさんから飼い主に渡ったところで、犬と飼い主の方の名前を変更していただくと、いざという時に飼い主さんがだれかわかります。迷子になったときに、迷子札や鑑札があるだけで飼い主の方も安心でき、ワンちゃんも知らない街で不安でウロウロすることも少なくなると思います。


（2）しつけ
緊急時に安全に避難し、避難所の保育場所で群れた生活がおくれるよう、日頃からケージ（キャリーバッグ、クレートなど）に入ることに慣らしておきましょう。慣れておくと動物病院への通院などの場合にも助かります。
（クレートトレーニング）
まずはケージの存在に慣れさせ、少しずつ入りこから奥へとフードや好物を使って誘導していきます。
また、「おいで」や「まて」ができると避難準備が早くでき、万が一はぐれても保護されやすくなります。
避難所には多くの人が集まります。日頃からいろいろな人や動物とも仲良くできるように慣らしておきましょう。無駄吠えをしないことやトイレなどの基本的なしつけも大切です。
また、日頃から、シャンプーやブラッシングをして清潔にしておきましょう。汚れや臭いがひどいとトラブルの元になってしまいます。
しつけの方法がわからないときは、次の相談先までご相談ください。
【しつけの方法に関する相談先】
一般財団法人滋賀県動物保護管理協会
住所：滋賀県近江八幡市136-98 滋賀県動物保護管理センター内
TEL：0748-75-6522　URL：http://www.sapca.jp/
（3）健康管理
犬は、飼い犬登録と毎年の狂犬病予防接種が義務付けられています。
感染症予防のため、ワクチン注射やフィラリア症、ノミ・ダニなどの寄生虫の駆除を日頃から行いましょう。
ワクチン接種後
フィラリア症
ノミ・ダニ
集団での飼育中の発端によるトラブル防止や迷子になった場合の思わぬ繁殖を防ぐために、性的ストレスの軽減、感染症の防止、無駄吠え等の問題行動の抑制などの効果を考えて、不妊・去勢手術をしておきましょう。
-4-

しつけも非常に大事です。クレートに入れるようにできていますか。日頃からクレートに入る訓練をしていただけると良いと思います。訓練の方法なども、マルシェでもやっていますので、お越しいただいてご相談ください。また滋賀県動物保護管理センターの隣にある一般法人滋賀県動物保護管理協会でもご相談いただけます。

健康管理も大切です。避難所ではまず予防です。狂犬病は当然ですが、他のワクチン、ワクチン注射やフィラリア症などの予防をしておかないと、他のペットに感染することもあります。迷子にさせない、吠えない、汚さない、無用なトラブルを起こさない、飼い主さんがしっかり管理することが大切です。

日頃からやっていただきたいことは、ペット用の避難用具の確保です。１日にペットに必要な水の量は犬猫共通で、だいたい１キロあたり 50 ㎖です。避難が長引く場合もあるので、１週間分ぐらいは準備しておきましょう。食べ物は定期的に期限を確認してください。特定の食べ物しか食べないワンちゃん、猫ちゃんも増えています。日頃から何でも食べるペットは良いのですが、飼い主さんが食べるもの、食べないものを知っておくことも大事です。日ごろ薬を飲んでいる動物を飼っておられる方は、予備の薬を用意しておきましょう。そして避難袋やリュックにひとまとめにして

おくと安心です。ペットによっては、特別なものが必要になることもありますので、定期的に見直すことも大切です。日頃は防災のことは忘れがちです。日常から確認できるペット防災カレンダーなどがあると便利です。

小動物のペット、ハムスター、鳥類、両生類、爬虫類、魚類などは避難するとなると、受け入れ側も大変だと思います。鳥類や小動物は場所を取らないですが、もし何かあったらというところをしっかり考えていきましょう。詳しい方がおられたら、市町も助かりますので、知識があることを伝えていただければと思います。滋賀県でもペット防災を取り入れた避難訓練を実施しているところもいくつかはありますが、全体的にはまだ進んでいないというのが現状です。滋賀県の防災訓練に呼んでいただいて、開所受付、ペットの受け付けなどの訓練をしました。同行避難ではどう受け入れるか、整理管理していくのかなど話し合うことから始めていきたいと思います。避難所運営のマニュアルを見直して、数か所でも良いので、ペットを受け入れる方向にしていただければ、ペットと一緒に暮らしておられる方は安心できると思います。生活する場所は分けるのか、一緒にするのか、スペースをつくるのか課題になってきますので、県や市町の防災関係課に相談していただければと思います。受け入れ体制や手順も載っています。しっかりしたガイドラインだと思っています。皆さんもスマホで写真に撮るなどして、手元に保管しておいていただけるとありがたいです。

川口さん:ガイドラインはどこで配付されているのですか。

藤井さん:市町の危機管理、防災係などに行ってもらうと窓口でもらえます。

川口さん:マイクロチップはどこで手に入れたらいいのでしょうか。

藤井さん:動物病院に行っていただくと、値段差があるとは思いますが 5,000 円から 1 万円ぐらいです。県のイベントなどでも装着を推奨されていますので、相談していただければと思います。

川口さん:ペットが迷子にならないための対策としてマイクロチップ、迷子札をつける。そして日頃からのしつけ、ドッグトレーナーさんもおられると思いますし、悩みはいっぱいあるとは思いますが、びわ湖わんにゃんマルシェの会場でもお伝えしていますので、そういった機会をご利用ください。災害時には薬も手に入らず大変です。日頃から健康チェックをしていただき、常備薬は持っておく。そして去勢手術をして、二次被害が起きないようにしていただきたいと思います。続いてペット防災カレンダーについてお話しいただきます。

ペット防災カレンダーについて　人と動物の共生センター、全国動物避難所協会　松本さん

松本さん:私たちはペットを飼っていても飼っていなくても誰もが安心して避難ができる社会の実現を目指して活動しています。災害時に動物を預かったり、人と動物が同伴避難できる動物避難所のネットワーク作りをしています。避難所の情報の集約とデータベース化、飼い主の方への情報提供の仕組み作りもしています。平時の取り組みとして、飼い主の方に適切な避難ができるような啓発活動をしています。なぜカレンダーを勧めようとしたかということですが、実は 15 歳未満の子

どもの人口よりも、今は犬猫の飼育頭数の方が多くなっています。更に 60 歳以上の飼い主の方の割合が３割以上にもなっていますので、飼い主の方の避難所でのケアや安全な避難も課題になっています。

一人でも多くの方に防災情報を平時から届けるにはどのようにすれば良いかを考えて、カレンダーを学生団体さんの提案をもとに 2021 年から作り始めました。2021 年の最初のカレンダーはスケジュールなどを書き込める部分がなかったのですが、病院に行く日を書き入れるスペースを入れたり、クレートトレーニングの手順を確認する動画など、家に居ながらできるものを記載しています。必要なものを準備できる日頃の備えチェックリストもカレンダーの末尾に載せています。



同行避難と同伴避難というよく似た言葉もイラストで説明しています。同行避難はペットと一緒に安全な場所に移動を伴う行動であることを示し、さらに矢印でその先に、ペットを避難所の敷地内で飼養管理することが同伴避難であると図で表しています。同伴避難にもいろいろな種類があり、避難所にもよりますが、別の場所で避難をしたり、同室での避難が可能だったりと、まだルールが定まっていません。各市町村も課題にはされていますが、いろいろと進めている段階というところも多いので、避難所だけではなくて、友人宅なども日頃から約束をしておくと良いと思われます。ワンちゃんを連れて避難訓練に行ったらどうなるかというところから、最寄りの避難所にルールがあるかないか、ルールがあるならどうなっているかを確認する声を上げようという企画もしています。見知らぬところに連れて行くなど普段と違う行動をすると動物はすごく戸惑います。今回の熊本での地震でも避難所に慣れるまで時間がかかったという声も聞いています。結構サプリなどを使うと良いですよというような普段あまり知られていない情報も載せております。ペット防災カレンダー2027 で検索していただければと思います。

普段から平時の繋がりを大事にしており、オンライン上で訓練を行っています。発災のときに、各地のつながりのある団体さんに、どういった状況か、どういったニーズがあるかをお尋ねしながら、現地に入る団体、後方支援をする団体、物資支援をする企業など他の外部の団体の方と連携して、ニーズに合った支援を進めています。

今年の熊本地震では熊本県氷川町に支援に入りました。発災時にはペットが同伴できる避難所の設置が計画になかったのですが、現地に入られた団体さんが町と調整をして、ペット同行避難ができる避難所を一か所設置いただきましたので、そちらの応援に入りました。避難所に避難されている方々は高齢の方が多く、福祉支援が必要な状況でした。地方は年齢層が高いので、予めペット同伴避難できる指定避難所を一か所でも良いので決めて、ルールもつくっておくと、高齢の飼い主さんの支援がスムーズになる、把握しやすい状況になると感じました。

ペット防災訓練をしました



川口さん:実際にどう動いたら良いのかを考えるためには、訓練をしていかないといけません。野洲市小篠原自治会が、野洲市で初のペット同行避難を取り入れた防災訓練をされました。どうやって声をかけていったのですか。

鷲田さん:ワンちゃんを飼っているのですが、災害が起きたときに自分の命を守りながら、ワンちゃんをどうやって守るのだろうということが疑問でした。動いてみよう、発信してみようがきっかけで、３年前から活動してきました。自分が住んでいる野洲市小篠原の地域の皆さんにペット同行避難を取り入れてもらって、身近なところから防災を学んでもらえる活動をしてみようと、直談判、たった一人で自治会に飛び込んで懸命にお話ししました。

ゲスト：鷲田 七恵　さん



川口さん:熱い思いがないと響かないのが現状です。こちらの自治会に私も行きましたし、滋賀県の動物愛護協会の職員の方にも来ていただいて、一緒に防災訓練をした様子を説明します。３年前の第１回目の小篠原自治会のペット同行避難の訓練では、最初に自治会にお願いして、避難所に仮定したグランドに、ペットと一緒に安全確認をしながら来てもらいました。到着後、受付で動物たちと飼い主さんが離れます。離れることが防災の始まりだと説明しました。犬が二匹、猫が二匹参加してくれました。どのワンちゃん、猫ちゃんも緊張していました。怯えてワンワン吠えたり、警戒するワンちゃん、ずっと固まっている猫ちゃんたちでしたが、クレートの中に入ってもらう練習をしました。

2026 年２月に湖南地域で実施された滋賀県総合防災訓練でも、動物と一緒に避難した後、開設した避難所でワンちゃんや猫ちゃんと飼い主さんたちが離れ離れになる練習をしました。実際に訓練をしたことで多くの気づきがありました。

鷲田さん:自分の命、人の命、動物の命を扱う中で、もっと学ばないといけない、経験を積まないといけない、広めていかないといけないという思いの中で、自分には何ができるかを探す中で、**「人とペットの防災救急塾」**を見つけて、ＡＥＤ講習や動物が負傷したときの止血の仕方、包帯の巻き方を学びました。始めはぬいぐるみで練習していたのですが、毎日練習しないと自分の身にはついてこないので、うちのワンちゃんに協力してもらって、背中から出血したという想定での止血の練習や包帯を巻く練習に付き合ってもらいました。他のメンバーと一緒に塾に参加して、たくさん学んでいきました。

もしものときに役に立つ災害時の無料の Wi-Fi があります。**「00000JAPAN」（ファイブゼロジャパン）**です。インターネットで検索してみてください。災害時は Wi-Fi が繋がらないこともあり

ます。「00000JAPAN」（ファイブゼロジャパン）は無料で災害時に家族や避難先との連絡や情報収集の手段として活用できます。

ペット用避難グッズを紹介

川口さん:避難用のグッズを持って来ていただいています。避難所にあれば良いというグッズも紹介します。（会場でいろいろなグッズを紹介していただきました。）

鷲田さん:ワンちゃん用の備蓄セットを持ってきました。まずいつも食べているフードです。何でも食べるペットもいれば、繊細で決まったものしか食べないペットもいます。さっと持ち出せるように１ヶ月分ぐらいは用意しています。不安になる場面でも、いつものおやつを食べると安心してくれますので、大好きなおやつも用意しておきます。飼い主やお家の匂いがついているシーツやタオル、毛布、ペットの洋服など、安心できる匂いのするものも用意しておきましょう。犬の登録証、ワクチン接種をしている証明書などもまとめて袋に入れておくと、バラバラになりません。避難所では結構確認されたりしますので必要となってきます。

薬を飲んでいるペットがいる方は、常備薬も必ず入れておきましょう。マイクロチップも推奨されていますが、そこまではいう方も多いと思います。災害時にワンちゃんとはぐれたときに、とても役立つ簡単なやり方があります。ワンちゃんの写真の裏に簡単で良いので、いろいろな情報を書いておくととても役立ちます。飼い主の名前、ペットの名前、連絡先、携帯番号などを書いています。あとはタオル、ウェットティッシュなどです。こういったものを備蓄セットの中に入れておくと役に立ちます。今日からでもできるのでやってみてください。

藤井さん:迷子札はぜひ着けていただければと思います。飼い主不明、何もわからない動物が相当数収容されています。迷子札があるだけですぐ連絡が取れるので、飼い主さんも安心できます。クレートは主に搬送用に使われています。おそらくワンちゃんや猫ちゃんは怖がって近づかないと思います。飼い主さんが飼っている動物のことをしっかりと理解して、どうやって教えたら良いのかを学んでいただくことが大事です。よく動物が言うことを聞いてくれないという話を伺います。最初はクレートに入らないと思いますが、安心できる場所にしてあげる、ここで毎日のご飯をあげたり、家の中に置いておくなどして慣らしていく。ここで寝られるようになったら最高です。練習をしておくといざというときに役に立ちます。

折り畳み式のケージもあります。ケージは室内に置いておけないという方も多いですが、折り畳み式はとても便利です。価格も安く 5,000 円ぐらいで、サイズも大中小とあります。私のワンちゃんの家はこれなので、いつもこれに入って寝ています。車の中にも載せておくのも便利です。

参加者からいくつか質問がありました。その一部を紹介します。

問:大型犬は避難所に行きにくい感覚があります。自宅を避難所代わりにできるようしたいので、家

庭用蓄電池の導入も考えたいのですが。

答:川口さん: Wi-Fi が使えないところでどう連絡を取り合うか、携帯を充電したいというとき、熱帯魚を飼っておられる方も大変だと思いますので、ポータブルの電源などは用意しておきたいです。

鷲田さん:滋賀県は比較的災害が少ないので、ラッキーではなくて、その間にできることを備えていくことは大事なことだと思います。

藤井さん:車による避難も可能性として考えとおいていただく方が良いと思います。車でのしばらくの避難も考えて準備しておいていただければと思います。

問:私の住む自治体では、ペットについてはまだまだ理解がないと思います。理解を深めていく手段があれば教えてください。

答:鷲田さん:大きく発信しようというのは難しいので、ＳＮＳ、ご近所の方や自治会を使ったり、自分ができるところから発信しました。やりたいと思っていること、不安に思っていることを含めて発信することが大事です。話してみる、伝えることだと思います。

川口さん:野洲市では鷲田さんに地元の小篠原自治会に最初に行っていただきました。情報を提供すれば、自治会で回覧していただいて、興味がある方には参加していただけます。先日の日曜日にオータムフェスタというお祭りでペット防災をしました。みなさんワイワイされている中で、どう伝えたら良いかと思っていたのですが、自治会の方が上手にペット防災の相談室がありますと広報してくださいました。自治会でペッド防災をしてもらえるというのでびっくりされていました。パンフレットを置くだけでも良い、自治会の回覧板にペット防災をやりますよという案内だけでも良いので、自治会でやっていただければと思います。ペットと暮らしている方は地域の中にもたくさんおられます。ペットを連れて避難してこられても、対応ができないということも考えられますので、防災訓練をやってみることが大事だと思います。考えるより行動することです。実際にやってみる。防災は行動と想像力だと思います。



ファシリテーター：川口　ひとみ　さん

藤井博次さん、鷲田七恵さん、川口ひとみさん、参加者の
みなさん　ありがとうございました。